

## 支えて応援する

中 三

私は小学校一年生の時からダンススクールに通っています。そのスクールには、障害のある子供たちが集まるクラスもあります。私たちのレッスんとすれ違いにレッスンがあるので、毎回接することになります。ダンススクールの先生から毎回のようには、

「しっかりと見守ってあげてね。」

と言われてきました。そこで私は、「平等な目で見ないといけない。」と思うのですが、心で思っているだけでも、観察をするようにじつくりと見てしまったりして、「平等に」と思えば思うほど、私の行動はぎこちなくなってしまうのでした。このような思いを、九年間ずっともち続けていました。時には、急に走り出すといった突然の行動を、不快に思うこともありました。また、普通に接することできない自分に腹が立ったことも何度もありました。「普通に」「普通に」と考えれば考えるほど、

「平等に」ということがとても難しく感じてしまうのでした。

そんな私の考えをすっきりさせてくれたできごとが、今年の四月にありました。私の学校にも「しえん学級」ができたのです。新入生に学校を紹介する生徒会行事の中で、「しえん学級」の担任の先生からこんなお話がありました。

『「しえん学級」の『しえん』という字は、漢字ではなく平仮名で書いています。し・えんという言葉は、漢字で『支援』と書きます。支援の『支』という文字は、支えるという意味で使われます。支援の『援』という字は、援助する、応援するという意味で使われます。東日本震災の時に『復興支援』という言葉をよく聞きました。それと同じです。『しえん学級』の子には、みんなより少し支えが必要なだけです。ぜひ『しえん学級』の子に関わってあげてください。自分から声をかけづらいつきには、先生に教えてください。それも支えて応援してあげることになるのです。』

私はこの話を聞いて、「あっ。」と思いました。「平

等に見ないといけない。」そう考えるのではなく、「応援しながら支えて、温かく見守る。」このような考えがあったのかと思うと、今まで重苦しかった心がすうっと軽くなってきたのです。

先日、ダンススクールの発表会がありました。障害のある子供たちが集まるクラスも、たくさんの方々の支えられながら、楽しそうに発表をしていました。温かく見守ろうとしていた私が、逆に、温かい気持ちにさせられていました。

自分たちと違うから「平等」にしなればという気持ちだが、「差別」につながってしまうのではないかと考えさせられました。相手を理解した上で、「支えて応援する」という考え方が大切だと思いました。それが、「人権」を守ることにつながるのだと感じました。